

恒例の秋のバス旅行、今回は、茨城の笠間で、日本一の石切山脈から笠間日動美術館、春風萬里荘へと芸術の美薫る街を巡る旅でした。出発時に心配された天候も現地では寒さもない日とで、大型バス1台総勢45名で、秋の菊花と紅葉も楽しむことができました。

《旅行日》 令和元年11月26日（火）



《日本一の石切山脈・稲田石の採掘跡地にて、参加者の皆さん》

主に石英の鉱物で稲田石は白く澄んだ石肌、耐久性に優れた硬い石の由。

ここの前山は地下65メートルまで採掘したが、2014年に休止した。3年の時を経て山脈から滲み出る湧き水と雨水により、透明性の高い神秘的な湖となったそうです。



《その採掘跡地の、地図にない湖》

水底も望める、切り出した石肌や、山の緑など、ちょっと珍しい眺めでした。



《日本の三大稲荷と言われる、笠間稲荷神社》

御祭神は「宇迦之御魂神」であらゆる殖産興業の守護神として、また火防の神様でもある由。
 ご創建は白雉2年（651年）で1360年の歴史を誇ります。年間参拝者数は350万人を数える。
 この日は、菊花祭りの最終日のようでした。



《社殿の側面と後面》

社殿の側面と後面には、見事な木彫の壁面が嵌め込まれていました。
 このような彫り物は、寅さんで有名な、東京・柴又の帝釈天の社殿にもありますね。



《笠間の街で見かけた見事な菊花》

バスで通りかかった街角で、このような、菊祭りの見事な風景に出くわしました。
まさに日本の秋の風景です。



《笠間日動美術館入り口で》

1972年（昭和47年）東京銀座にある日動画廊創業者、長谷川仁・林子夫妻により、長谷川家ゆかりの地であるここ笠間に創設されたもの。日本を代表する画商の系列美術館であり、西洋の近代、日本の近・現代の巨匠が描いた絵画を中心に3千点を超す所蔵品があります。フランス館、企画展示館、野外彫刻庭園があり、とても素晴らしく、楽しいところでした。展示されている泰西の名画や美術品の数々に、参加の方から感嘆の声が多々ありました。



《笠間日動美術館の野外彫刻庭園の一部》

企画展示館からフランス館へ行く間に、斜面に沿って野外彫刻庭園があり日本の具象彫刻界を代表する作家の秀作19体が、四季折々の果樹を背景に佇んでいました。



《春風萬里荘にて・・長谷川仁・林子夫妻の像》

昭和39年（1964）洋画家・朝井閑右衛門と小説家・田村泰次郎が長谷川仁日動画廊社長と笠間を訪れた折、笠間に作家たちの要望から「芸術の村」の構想ができ、その翌年に北大路魯山人が住居とし星岡窯を構えていた茅葺民家を北鎌倉から移築し、「春風萬里荘」と名付け開設されたものです。

緑濃い丘陵地にできた「芸術村」の一角にある「春風萬里荘」の建物のそばに、夫妻の像がありました。



《春風萬里荘の建物の中から庭の眺め》

京都にある寺院の庭を思わせるような美しい庭でした。



《春風萬里荘の母屋》

広大な前庭から母屋を・・・

参加の皆さん、建物の内外を回って、魯山人の思いを感じながら、
秋の風情をゆっくりと楽しんでおられました。

バスの運行も、ドライバーさんの安全運転の腕が素晴らしく、ほぼ予定時刻に西柴に帰りました。

この次のバスハイクの予定は、来年5月の第4火曜日です。

行先はまだ決まっていませんが、楽しみに。

(お わ り)